

No.32

2005年12月発行

淀川水系 流域委員会 淀川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第32回淀川部会の内容…………… P. 1
- 第32回淀川部会の説明資料より抜粋…………… P. 3
- 配付資料リスト…………… P. 7
- 淀川部会 委員リスト…………… P. 8
- これまで開催された会議等について…………… P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付…………… P. 10

平成17年10月21日（金）、第32回淀川部会が行われました。



【カラスマプラザ21にて】

第32回淀川部会の内容

審議資料1-7「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」とスライドを用いて、大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発の調査検討について、委員との意見交換が行われました。

第32回淀川部会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年10月21日（金）10：00～12：45

場 所：カラスマプラザ21 8階 大・中ホール

参加者数：委員14名、河川管理者15名、一般傍聴者82名

1. 決定事項：特になし
2. 報告の概要：庶務より、報告資料1を用いて、第31回淀川部会の結果報告がなされた。
3. 審議の概要

①大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発の調査検討についての意見交換

審議資料1-7「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」とスライドを用いて、大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発の調査検討について、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

○低周波音に関する説明と意見交換（天ヶ瀬ダム再開発）

河川管理者より審議資料1-6「低周波音に関する説明資料」の説明がなされた後、意見交換がなされた。

- ・低周波音が人体に与える影響について教えて頂きたい。
 - ←このレベルの低周波音には機能障害に陥るような人体への影響はないと言われている。（河川管理者）。
 - ←低周波の規模が大きくなれば、絶対に慣れることはできない。注意しておいて頂きたい（委員）。
- ・スポイラーによる対策はダム放流口には適用できないだろう。専門家の意見を聴いて対策を進めてほしい。

○大戸川ダムの調査検討に関する意見交換

- ・5ダム方針では、大戸川の治水は、宇治川と淀川の河川整備が進んだ段階で狭窄部開削と併せて検討するとされている。大戸川の治水対策は下流の河川整備が進むまで放置しておくという意味なのか。
 - ←当面の大戸川の治水対策についても、滋賀県との調整を進めて対策を考えていく（河川管理者）。
- ・流域委員会は、大戸川の治水対策に関する滋賀県との調整についてコメントできるのか。流域委員会は直轄区間だけではなく関連する事項についても意見を言うていくという考え方でやってきた。
 - ←流域委員会には河川整備計画に付随して、意見を言わなければならない事には意見を言うて頂いた。今後同様ではないか（河川管理者）。
- ・大戸川の流下能力が300m³/s以下の箇所がいくつかある。洪水時にここから自然に溢れる分が調整されて300m³/s程度が瀬田川に合流するという理解でよいのか。
 - ←実際には溢れた分が川に戻るため、流量はもう少し大きくなる。300m³/sはダムで調節した後の流量なので、瀬田川の合流する流量は氾濫がどのように起きたかによって変わってくる（河川管理者）。
- ・河川整備によって流下能力が上がれば、瀬田川の合流する流量は増える。天ヶ瀬ダムに流入する量をコントロールするためには、瀬田川洗堰で制御しなければならないのではないか。
 - ←下流に与える影響まで含めて今後調整をしていく。大戸川改修によってピーク流量は上がるが、どの程度上がるかは、大戸川改修後に実際にどのように氾濫して氾濫した水が川にどう戻っていくのかを計算してみないとわからない。現在、検討を進めている（河川管理者）。
- ・大戸川から500m³/sと瀬田川洗堰から800m³/sの合計1300m³/sは、天ヶ瀬ダムの放流能力を超えているが、天ヶ瀬ダムの放流能力を超えたとしても、天ヶ瀬ダムの容量に余裕があれば、こういった操作をするのか。
 - ←前期放流では、天ヶ瀬ダムの洪水調節能力をフルに発揮させるために、瀬田川洗堰を全閉するというルールがある。しかし、後期放流に関してはきっちりとしたルールが記載されておらず、河川管理者が下流の状況を見て判断することになる。大戸川からコントロールできない流量が来れば、雨の降り方等によっては、洗堰全閉も検討の範囲に入ってくる（河川管理者）。
- ・大戸川ダムは、直接的には大戸川の治水に、間接的には琵琶湖の治水に効く。また、遊水地や河道改修等の治水整備に比べて、ダムの方が効果の発現時期が早い。やはり、狭窄部の開削について、はっきり

した考え方を示した方がよい。工事実施基本計画では、将来的には狭窄部を開削するという事になっているが、「将来的にも狭窄部の開削はしない」ということも選択肢としてあり得るのではないかと。←開削の議論は社会資本整備審議会での審議事項だろう。河川整備計画（今後20～30年）では「狭窄部は開削しない」という方針を打ち出しているのだから、委員会はこれを前提に議論を進める（部会長）。

- ・ダムと河川改修の事業主体が違う。国がダムを中止して、自治体の河川改修にコストを回せるのか。ダムの代替事業の実現可能性についてもあわせて説明してほしい。
- ・意見書では、環境についても書いておくべきではないか。大戸川ダムを当面実施しないとしても、すでに工事が進んでいるところもある（ダム建設用の骨材の処置等）。
- ・河川管理者は、ある組織が住民意見だと考えているのか。今後も説明会等で住民合意を諮っていくのか。他の解決方法も必要になってくるのではないかと。
 - ←住民説明会や対話集会をやってきたが、今後も続けていかなければいけないと思っている。住民の中には当事者がおり（対策協議会等）、直接、説明をして納得して頂いた方々もいる。住民説明会と個別的な説明会をやっていくといけないと思っている（河川管理者）。
- ・流域委員会は河川レンジャーを提言したが、委員が自ら河川レンジャーとなって行政と住民の間に立っていく覚悟があるかどうか。住民参加の提言が委員会自身に返ってきている。

○天ヶ瀬ダム再開発の調査検討に関する意見交換

- ・塔の島地区の景観を考えていく上において「本来あるべき姿とは何か」という問題がある。水辺の視野を遮らないことが大切だと考えている。1500m³/sを流すためのパラペットは水辺との一体感を崩してしまふことになりかねない。1500m³/sを1300m³/sにしてパラペットを下げる等の調整がきかないのか。
- ・塔の島地区下流に可動堰を作れば、塔の島地区を掘削したとしても、亀石の景観や鵜飼い等の問題を解決できるのではないかと。河道掘削＋可動堰という案は可能なのか。
 - ←可動堰については別途検討会で検討を始めたところだ。可動堰やマウンド案も含めて検討していく。ただ、亀石付近の水位を保つためには、相当高い堰になってしまう可能性がある（河川管理者）。
- ・先行投資として、天ヶ瀬ダムの放流能力を1500m³/s以上にしておくという考え方はよいとは思いますが、例えば、1800m³/sの放流口を実際に活かすためには、塔の島地区の河道掘削や下流の堤防強度が絡んでくる。宇治川下流で膨大な投資が必要になるかどうか判断の基準になってくる。
 - ←さらに流量が増えた場合、宇治川下流で安全に流すためには、相当の投資が必要になる（河川管理者）。
 - ←河川管理者は、現在の塔の島地区の流下能力は1200m³/s程度だと言っているが、本当にそうなのか。宇治川の水位は三川合流地点から追いかけているが、粗度係数によって結果が変わってくる。安全側に見積もるのは、防災上、正しい考え方だとは思いますが、事実とかけ離れている可能性もある。実際の流下能力は流れてみないと分からないこともある。塔の島地区に少しだけ手を加えれば、2000m³/s流れるようになるかもしれない。そういったことを検討してみたい（部会長）。
 - ←後期放流に限定すれば（後期放流開始は、枚方地点の水位が危険水位よりも下がることが条件となっているため）、枚方地点の出発水位は高い水位でも、低い水位でもない。考え得る最大の水位で水位計算を行い、1500m³/s流れる整備を行うという考え方で進めている（河川管理者）。

○その他

- ・現在、流域委員会が河川整備計画策定スケジュールのどの地点にいるのか、河川管理者から示してもらいたい。また、河川管理者による住民明会の状況についても、説明してほしい。
 - ・社会資本整備審議会河川分科会で基本方針の審議が始まっている。関連資料も積極的にご提供頂きたい。
4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者3名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。
 - ・大戸川ダムがなくなったのであれば、ダム代替策を示してほしい。また、低周波については、責任を持って調査をして頂きたい。横島堤防については、緊急堤防補強区間3.8kmのコストが示されていない。3.8kmの堤防補強で1500m³/s放流が本当に可能なのか。塔の島地区の景観については、締切堤の撤去も検討してほしい。塔の島地区河川整備検討委員会には地元の要望が取り入れた意見書にして頂きたい。
 - ・塔の島地区河川整備検討委員会の議事録を開示して、審議内容を流域委員会にも報告すべきだ。流域委員会の議論には、保津峡開削や亀岡や桂川の治水の話が出てこない。横島堤防付近の住民は過去の災害から不安を持っている。地元との対話をきちんとすべきだ。低周波音についても専門家を招いて日常的な幅広い調査をしてほしい。委員も河川管理者も実際に川を歩いて住民と対話して頂きたい。
 - ・スライド説明資料を読み上げて説明して頂いたのは大変よかった。委員は、発言の前には必ず名前を述べて頂きたい。ダムWGはできるだけ公開で開催して頂きたい。

■審議資料1-7より

第32回淀川部会では、審議資料1-7「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」を用いて、委員間で意見交換が行われました。以下に資料を掲載いたします。

淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）

序

1 はじめに

- 1-1 環境面からみたダムについての基本的な考え
- 1-2 治水面からみたダムについての基本的な考え
- 1-3 利水面からみたダムについての基本的な考え

2 丹生ダム

- 2-1 丹生ダムの経緯
- 2-2 丹生ダムの効果
- 2-3 丹生ダムの問題点
 - 2-3-1 高時川の治水
 - 2-3-2 異常渇水時の緊急水の補給
 - 2-3-3 自然環境への影響
 - 2-3-4 関連事業
 - 2-3-5 経費配分

3 大戸川ダム

- 3-1 大戸川ダムの経緯
- 3-2 大戸川ダムの今後の課題
 - 3-2-1 大戸川の治水
 - 3-2-2 関連事業
 - 3-2-3 経費配分
 - 3-2-4 地域社会への影響

4 天ヶ瀬ダム再開発

- 4-1 天ヶ瀬ダム再開発の経緯
- 4-2 天ヶ瀬ダム再開発の効果
- 4-3 天ヶ瀬ダム再開発の問題点
 - 4-3-1 天ヶ瀬ダムの放流能力
 - 4-3-2 瀬田川洗堰の放流能力

- 4-3-3 鹿跳溪谷の流下能力
- 4-3-4 宇治川の流下能力
- 4-3-5 環境への影響

5 川上ダム

- 5-1 川上ダムの経緯
- 5-2 川上ダムの効果
- 5-3 川上ダムの問題点
 - 5-3-1 上野地区の治水
 - 5-3-2 自然環境への影響

6 余野川ダム

- 6-1 余野川ダムの経緯
- 6-2 余野川ダムの今後の課題
 - 6-2-1 猪名川の治水
 - (1) 多田地区の治水
 - (2) 猪名川下流の治水
 - 6-2-2 関連事業
 - 6-2-3 経費配分
 - 6-2-4 地域社会への影響

7 おわりに

配付資料リスト

●第32回淀川部会 配付資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		Y32-A
報告資料1	第31回淀川部会（H17.9.13開催）結果報告	Y32-B
審議資料1-1	淀川水系5ダムについて（調査検討のとりまとめ） ※河川管理者提供資料	Y32-C
審議資料1-2	大戸川ダムの調査検討（とりまとめ） ※河川管理者提供資料	Y32-D
審議資料1-3	天ヶ瀬ダム再開発の調査検討（とりまとめ） ※河川管理者提供資料	Y32-E
審議資料1-4	塔の島地区の河道整備について 宇治川下流の治水対策について （8月24日版） ※河川管理者提供資料	Y32-F
審議資料1-5	天ヶ瀬ダム再開発について（9月13日） ※河川管理者提供資料	Y32-G
○審議資料1-6	低周波音に関する説明資料（10月21日） ※河川管理者提供資料	Y32-H
○審議資料1-7	淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）	Y32-I
その他資料	委員会の今後のスケジュール	Y32-J
参考資料1	委員および一般からのご意見	Y32-K
参考資料2	新聞記事集	Y32-L

注：○：新たに河川管理者から提供（または修正）のあった資料

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

淀川部会 委員リスト

2005.10.21現在（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
1	綾 史郎	洪水、高潮・津波	大阪工業大学 教授	琵琶湖部会 住民参加部会
2	今本 博健	洪水	京都大学 名誉教授 水工技術研究会 会長	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
3	岡田 憲夫	事業評価	京都大学防災研究所 教授	木津川上流部会 住民参加部会
4	荻野 芳彦	農業関係	大阪府立大学 名誉教授	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
5	嘉田 由紀子	地域・まちづくり	京都精華大学 教授 滋賀県立琵琶湖博物館 研究顧問	琵琶湖部会 住民参加部会
6	金盛 弥	洪水	元大阪府副知事	猪名川部会 利水・水需要管理部会
7	川上 聰	住民連携	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長	木津川上流部会 利水・水需要管理部会
8	川崎 雅史	景観	京都大学大学院工学研究科 助教授	琵琶湖部会 住民参加部会
9	澤井 健二	河川敷・水面利用	摂南大学工学部 教授	猪名川部会 住民参加部会
10	高田 直俊	洪水、 河道形状・土砂移動	大阪市立大学 名誉教授 社団法人 大阪自然環境保全協会 会長	猪名川部会 利水・水需要管理部会
11	田中 真澄	住民連携	岩屋山志明院 住職 鴨川の自然をはぐくむ会 代表 NPO法人 市民環境研究所 副代表	琵琶湖部会 住民参加部会
12	千代延 明憲	住民連携	流域住民	猪名川部会 利水・水需要管理部会
13	寺川 庄蔵	住民連携	びわ湖自然環境ネットワーク 代表	琵琶湖部会 住民参加部会
14	寺西 俊一	経済	一橋大学大学院経済学研究科 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
15	西野 麻知子	動物	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 総括研究員	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
16	本多 孝	住民連携	IPNET-Jインタープリテーションネットワーク・ジャパン 事務局長	猪名川部会 住民参加部会
17	村上 興正	生態系、動物、景観	同志社大学 嘱託講師	猪名川部会 住民参加部会
18	安田 喜憲	水文化	国際日本文化研究センター 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
19	谷内 茂雄	生態系	総合地球環境学研究所研究部 助教授	琵琶湖部会 住民参加部会

これまで開催された会議等について

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会
第1回～第6回 平成13年開催	第1回～第8回 平成13年開催	第1回～第10回 平成13年開催	第1回～第6回 平成13年開催
第7回～第15回 平成14年開催	第9回～第20回 平成14年開催	第11回～第20回 平成14年開催	第7回～第17回 平成14年開催
第16回～第27回 平成15年開催	第21回～第27回 平成15年開催	第21回～第23回 平成15年開催	第18回～第20回 平成15年開催
第28回 H16/2/26 (木)	第28回 H16/10/13 (水)	第24回 H16/8/25 (水)	第21回 H16/9/1 (水)
第29回 H16/5/8 (土)	第29回 H16/11/8 (月)	第25回 H16/9/17 (金)	第22回 H16/10/21 (木)
第30回 H16/6/22 (火)	第30回 H16/12/15 (水)	第26回 H16/10/19 (火)	第23回 H16/11/2 (火)
第31回 H16/7/29 (木)	第31回 H17/1/8 (土)	第27回 H16/11/30 (火)	第24回 H16/12/3 (金)
第32回 H16/8/24 (火)	第32回 H17/4/13 (水)	第28回 H16/12/18 (土)	第25回 H16/12/23 (木)
第33回 H16/9/29 (水)	第33回 H17/8/17 (水)	第29回 H17/4/11 (月)	第26回 H17/4/14 (木)
第34回 H16/10/25 (月)	第34回 H17/9/14 (水)	第30回 H17/8/22 (月)	第27回 H17/8/18 (木)
第35回 H16/11/16 (火)	第35回 H17/10/19 (水)	第31回 H17/9/13 (火)	第28回 H17/9/11 (日)
第36回 H16/12/20 (月)	木津川上流部会	ダムWG	3ダムサブWG
第37回 H17/1/11 (火)	第1回 H17/4/20 (水)	第1回 H16/7/11 (日)	第1回 H16/8/7 (土)
第38回 H17/1/22 (土)	第2回 H17/8/20 (土)	第2回 H16/7/18 (日)	第2回 H16/9/11 (土)
第39回 H17/2/5 (土)	環境・利用部会	第3回 H16/7/25 (日)	第3回 H16/11/8 (月)
第40回 H17/3/14 (月)	第1回～第7回 平成15年開催	第4回 H16/8/19 (木)	川上ダムサブWG
第41回 H17/5/17 (火)	第1回～第6回 平成15年開催	第5回 H16/9/23 (木)	第1回 H16/8/3 (火)
第42回 H17/7/21 (木)	利水・水需要管理部会 (旧利水部会)	第6回 H16/10/4 (月)	第2回 H16/9/3 (金)
第43回 H17/7/25 (月)	第1回～第5回 平成15年開催	第7回 H16/10/18 (月)	余野川ダムサブWG
第44回 H17/8/5 (金)	第6回 H17/4/24 (日)	第8回 H16/11/10 (水)	第1回 H16/8/11 (水)
第45回 H17/8/24 (水)	住民参加部会	第9回 H16/12/1 (水)	第2回 H16/9/22 (水)
第46回 H17/9/24 (土)	第1回～第7回 平成15年開催	第10回 H16/12/5 (日)	水位操作WG
その他	第8回 H17/4/24 (日)	丹生ダム意見交換会	第1回 H17/6/29 (水)
設立会、発足会 第1回 合同懇談会	平成13年開催	住民の意見を聞く会	
第1回合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会	平成14年開催	住民と委員との意見交換会(丹生ダム)	
提言説明会	平成15年開催	住民と委員との意見交換会(余野川ダム)	
しっかりしてや!!流域委員会	H16/2/28 (土)	住民と委員との意見交換会(川上ダム)	
ファシリテーターとの検討会	H16/5/15 (土)	住民と委員との意見交換会 (大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発)	
大戸川、天瀬ダム意見交換	H16/9/26 (日)	木津川上流部会意見交換会	

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。
 ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
 ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。(希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。)ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。

ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。

※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名(または居住地)とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研(株)



淀川水系流域委員会 淀川部会ニュース No. 32

2005年12月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本
事務担当：山根

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1（大阪富士ビル8階）

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E-mail: yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス
<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。